

令和6年度 第1回

北多摩西部健康危機管理対策協議会

健康危機管理（感染症）訓練等部会 会議録

1 開催日時

令和6年9月26日（木曜日） 午後1時30分から2時39分

2 会場

東京都多摩立川保健所 講堂での集合とオンラインのハイブリッド方式

3 会議次第

（1）議事

ア 感染症対応実践型訓練について

（ア）実践型訓練概要（図上シミュレーション訓練）について

（イ）実践型訓練実施イメージについて

（ウ）実践型訓練会場配置図（案）について

（エ）実践型訓練タイムスケジュール（案）について

（オ）感染症対応実践型訓練シナリオ（案）について

イ 健康危機管理（感染症）訓練等部会の予定について

（ア）多摩立川保健所健康危機管理対策スケジュール（案）について

（2）その他

4 委員名簿

12名（令和6年9月26日現在）

（敬称略）

国家公務員共済組合連合会 立川病院 感染制御部室長	竹内 美枝
独立行政法人 国立病院機構災害医療センター 副看護師長	浅利 菜穂子
社会医療法人社団健生会 立川相互病院 感染管理認定看護師	槇野 順子
社会医療法人財団大和会 武蔵村山病院 感染管理室副室長	山本 真吾
一般社団法人立川市医師会 小児保健担当理事	平野 静香
立川市保健医療部健康推進課長	鈴木 央子
昭島市保健福祉部健康課長	原田 千尋
国分寺市健康部健康推進課長	占部 英一
国立市健康福祉部保健センター担当課長	加藤 尚子

東大和市健康いきいき部健康推進課長兼新興感染症対策等担当係長事務取扱	幸 村 有 紀
武蔵村山市健康福祉部健康推進課長	持 田 文 吾
東京都多摩立川保健所長	長 嶺 路 子

5 欠席委員

占部委員

令和6年度 第1回 北多摩西部健康危機管理対策協議会
健康危機管理（感染症）訓練等部会

令和6年9月26日

開会：午後1時30分

【角田市町村連携課長】 それでは、定刻になりましたので、始めさせていただきます。

ただいまから、令和6年度第1回北多摩西部健康危機管理対策協議会 健康危機管理（感染症）訓練等部会を開会いたします。

皆様にはお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

私は、多摩立川保健所市町村連携課長の角田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます。

それでは、最初に本日の資料の確認をさせていただきます。お手元のクリップ留めしである次第の裏面に、資料一覧を記載しておりますが、本日は資料1から9までとなっております。資料8につきましては、訓練のシナリオとなっております。事前にお送りはしていませんでしたが、本日配付しております。会場の皆様には、クリップ留めとは別に資料8として、シナリオのフルバージョンをお配りしております。こちらにつきましては、部会終了後に回収をさせていただきたいと思っております。クリップ留めの中にも資料8をつけておりまして、そちらにつきましては、詳細部分を隠しておりますので、お持ち帰りいただけたらと思います。

WEB参加の方につきましては、直前で申し訳ございませんが、先ほど詳細部分を隠している資料8をメールで送付させていただきましたので、適宜そちらをご参照いただけたらと思います。

資料の不足等がございましたら、恐れ入りますが、事務局までお申しつけください。

それでは開会に当たり、多摩立川保健所を代表いたしまして、所長の長嶺よりご挨拶申し上げます。

【長嶺保健所長】 皆様こんにちは。非常に暑い中になってしまいましたが、ご来所賜りました皆様方、本当にいつもありがとうございます。この夏、本当に何度もご足労いただいた方々が大変多く、恐縮に思っております。そして、またWEBでご参加いただいている皆様方、本当にお忙しい中、ご参加いただきまして、ありがとうございます。

さて、北多摩西部健康危機管理対策協議会 健康危機管理（感染症）訓練等部会の目的でございますが、新興再興感染症、大規模食中毒、NBC災害等の健康危機に対して、北多摩西部保健医療圏における未然防止策及び発生時対策等の協議をするとともに、関係機関の連携を図ることを目的に、多摩立川保健所に健康危機管理対策協議会を設置してございます。この協議会にぶら下がる形で、感染症を対象とした健康危機に関する訓練及び多摩立川保健所健康危機対処計画等に関する専門的事項を討議して

もらうために、健康危機管理（感染症）訓練等部会を設置してございます。

本日の趣旨でございます。3年以上に及びました新型コロナウイルス感染症の対応を踏まえまして、感染症法が改正され、東京都感染症予防計画の改定が行われたところでございます。あわせまして、予防計画との整合性を図りながら、多摩立川保健所にも健康危機対処計画を策定いたしました。保健所は関係機関等と連携いたしまして、多摩立川保健所健康危機対処計画に基づく訓練を毎年実施し、訓練計画、そして、その効果検証や対処計画の見直しを図っていくこととしてございます。

この部会では、訓練計画やその検証、対処計画の見直しについてのご議論をいただきたく存じます。皆様方からのご意見を踏まえまして、今後の計画の見直しにつなげ、地域における感染症対策の中核的機関として、感染症発生予防等の推進をしていくつもりでございます。

新型コロナ前は多分、皆様方のご所属のところで訓練等されていたかと思いますが、どうぞそのときの事項を思い出していただいて、ぜひ本日はご議論いただければと存じます。どうぞよろしくお願いいたします

【角田市町村連携課長】 続きまして、委員の紹介に移ります。

今年度からこの部会を新たに設置することになり、皆様に委員の就任依頼をさせていただきました。委員の皆様、ご就任いただきまして、誠にありがとうございます。任期は令和8年の3月31日までとなっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料1の名簿に沿って、皆様を私からご紹介させていただきたいと思います。まず、会場にお越しの皆様、そしてその後、WEB参加の皆様の順番でお名前を呼ばさせていただきますので、着座のままで結構ですので、ご一礼いただければ幸いです。

それでは、会場にお越しの皆様からお呼びいたします。

国家公務員共済組合連合会 立川病院 感染制御部室長、竹内委員でございます。

【竹内委員】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター 副看護師長、浅利委員でございます。

【浅利委員】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 社会医療法人社団健生会 立川相互病院 感染管理認定看護師、槇野委員でございます。

【槇野委員】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 一般社団法人立川市医師会 小児保健担当理事、平野委員でございます。

【平野委員】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 昭島市保健福祉部健康課長、原田委員の代理出席で、本日は地

域保健係の櫻井係長にご出席いただいております。

【櫻井地域保健係長】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 国立市健康福祉部保健センター担当課長、加藤委員でございます。

【加藤委員】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 武蔵村山市健康福祉部健康推進課長、持田委員でございます。

【持田委員】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 続きまして、WEBでご参加いただいております、委員の方をご紹介します。

社会医療法人財団大和会 武蔵村山病院 感染管理室副室長、山本委員でございます。

【山本委員】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 立川市保健医療部健康推進課長の鈴木委員でございます。

【鈴木委員】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 東大和市健幸いきいき部健康推進課長兼新興感染症対策等担当係長事務取扱、幸村委員でございます。

【幸村委員】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 続きまして、多摩立川保健所幹部職員を紹介いたします。

稲葉副所長です。

【稲葉副所長】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 土方保健対策課長です。

【土方保健対策課長】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 柳澤歯科保健担当課長です。

【柳澤歯科保健担当課長】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 山科地域保健推進担当課長です。

【山科地域保健推進担当課長】 よろしく願いいたします。

【角田市町村連携課長】 なお、本日は、伊藤生活環境安全課長は欠席とさせていただきます。

続きまして、本部会の会議に先立ちまして、次第4の部会長選任を行います。

資料3の北多摩西部健康危機管理対策協議会部会運営要領第5の2におきまして、部会長は部会の委員の互選によって定めとなっております。どなたか意見のある委員の方はいらっしゃいますでしょうか。

(浅利委員 挙手)

浅利委員、お願いします。

【浅利委員】 部会長の互選につきまして、提案させていただきたいと思います。部会長には地域保健に関する拠点として、医療機関や各市などと連携して健康危機管理に取り組んでおられます、多摩立川保健所長であります長嶺委員にお願いしたいと思いま

すが、いかがでしょうか。

【角田市町村連携課長】 ただいまご提案がありましたが、皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

【角田市町村連携課長】 それでは、異議なしということで部会長は、多摩立川保健所の長嶺所長にお願いしたいと思います。今後の議事の進行について、長嶺所長、よろしくをお願いいたします。

【長嶺部会長】 それでは、改めまして、本部会の部会長として進行役を務めさせていただきます。長嶺でございます。よろしくお願いいたします。

早速次第5から議事に入ります。

(1) 感染症対応実践型訓練について。ア 実践型訓練概要(図上シミュレーション訓練)についてから、オの感染症対応実践型訓練シナリオ(案)についてまでを、事務局から説明をお願いいたします。

【角田市町村連携課長】 それでは、資料の順に沿ってご説明いたします。まず資料の4をご覧ください。

1 ページ開いてスライド番号1をお開きください。

そちら訓練の目的ですが、上の二つの枠で、訓練実施の主な目的と検証の主な目的を記載しております。上の枠、訓練実施の目的としては、状況判断や意思決定能力などの対応能力の向上に役立てること。それから、情報の収集整理、共有の重要性の確認、新型コロナ対応を踏まえた対応の確認を行うこととしております。下の枠、検証の目的としては、訓練を振り返り、新興感染症発生時の対応について、実効性や課題を確認し、各主体のマニュアルや健康危機対処計画の見直しなど実践的で効果的な対策にバージョンアップしていきたいと考えております。

こういった目的のもと、下の矢印の先ですが、訓練によって、初動の重要性や優先順位づけの必要性について認識を共有し、対処計画を実践的なものに見直していきたいと考えております。これらを踏まえて、今回の訓練による検証のポイントとしては、関係機関との情報連絡、各機関の初動対応、感染症業務の3点として、シナリオを作成していきたいと考えております。

スライドの2、訓練概要ですが、訓練の実施方法はロールプレイング型の図上シミュレーション訓練とします。実施日は11月14日木曜日の午後1時半からを予定しております。下のスケジュールですが、冒頭に訓練内容の説明を15分程度、それから課題検討で合計1時間、その後情報連絡訓練を30分間、振り返りの意見交換と講評を15分間というスケジュールを考えております。

スライド3をお開きください。課題検討の流れについて、この後、具体的な内容は別途ご説明いたしますが、上のシーン1のところで、海外で感染症が発生したという状況について、ニュースをスクリーンで流し、住民から問合せが各班に入ったら、各班はどういった対応をするか検討していただく流れを考えております。

なお、このシーン1の検討が各班の最初の話合いになりますので、手短に自己紹介やアイスブレイクなどもこの中で行っていただくことを想定しております。

シーン1が終わりましたら、シーン2として、都内の感染症発生時の対応についても同様にスクリーンで課題を付与し、各班で検討をしていただこうと考えております。

スライド4をご覧ください。こちらは情報連絡訓練の流れをイメージした資料となっております。左上の黄色の四角で、健康危機の発生、都内初感染とありますが、これが先ほどの課題検討のシーン1、2の時間軸のイメージです。課題検討の後、管内1例目発生を情報連絡訓練として実施していきます。

下のポンチ絵ですが、スクリーンで初めの情報を全体にお知らせし、その後は事務局から個別の範囲に対して状況を付与し、各班がそれぞれに対して情報収集や連絡をしていただく流れを考えております。シナリオの時間は1月24日の午前10時から翌日の午前9時頃までを想定しておりますが、実際の訓練時間は30分間を想定しています。

これはシナリオでは、病院へ移送する時間や検査結果が出るまで時間を要しますが、訓練ではそういった時間を省略するため、こういった時間の中で実施していきたいと考えております。

スライド5をご覧ください。訓練の進め方ですが、訓練参加者をそれぞれの役割に応じて、「本庁班」、「保健所班」、「病院班」、「医師会班」、「市役所班」に分けます。各班は当部会の委員や親会である協議会委員のうち、所属が病院の方、医師会の方、市役所の方を想定しており、各班6人程度となるように調整する予定です。

本庁班と保健所班は保健所職員を想定していますが、本庁班は都庁の感染症対策部の職員にも参加してもらい、圏域の状況を共有していきたいと考えております。

隅括弧の課題検討のところですが、シーン1の海外発生期、シーン2の都内発生期などの対策などについて、新型コロナ対応を踏まえてグループごとに話合いをし、各班に発表していただきます。

その下、情報連絡訓練のところですが、管内発生初期の状況をスクリーンに表示し、事務局から各班に個別にメールで状況を付与していきます。後ほどシナリオで説明しますが、今回は症状を発症した患者がクリニックを受診するところから始める想定ですので、医師会班、クリニック班も同じ班になりますが、そこに状況を付与するところから始める想定です。

各班はスクリーンや事務局からの状況付与に対して対応を検討し、メールまたは電話で必要な連絡をほかの班や事務局に伝達していただきます。

スライド6をご覧ください。

各班の検討した結果の決定は、必ずしも正解が一つということはないですが、想定外の方角に向かっている場合や、シナリオで予定している連絡が来ない場合などは、必要に応じてファシリテーターや事務局から状況付与により、修正をさせていただく場合も想定しております。また、班によっては対応がない時間帯も想定されますので、

事務局から特定の班に対して、シナリオの流れとは別に課題を投げかけることも考えております。

続きまして、資料の5についてご説明いたします。資料をご覧ください。

先ほどご説明した訓練の流れをポンチ絵で表現したものです。上の点線で囲っている訓練の実施イメージですが、各班は事務局からスクリーンによるテレビニュースに見立てた映像やメールによる状況付与を見て検討事項を議論し、ほかの班や事務局に対して情報連絡を行っていただきます。

A班、B班と書いてある下の点線の中ですが、各班で検討して意思決定をしたら、メールまたは電話で連絡することを想定しておりますので、各班にはノートパソコン、モニター、内線電話を設置する予定です。ほかの班にメールをする場合は、事務局もCCに入れて連絡していただく。また、ほかの班に電話連絡した場合ともに事務局にその状況をメールで報告してもらいます。事務局はこれらを随時クロノロジーに入力し、各班や見学者など、会場参加者全員が状況を把握できるようにしていこうと考えております。

点線の下は資料の下半分の対応例ですが、今の内容をもう少し具体的に場合別のフローを記載しております。下の黄色の四角の左側ですが、こちらは連絡する先の機関が訓練の班構成にない場合、事務局に連絡をしたということをメールで報告していただきます。真ん中ですが、連絡ではなく、その班が行動したという選択をした場合は、事務局にその旨を連絡していただきます。右ですが、例えばA班がB班に連絡を行う場合は、B班を宛先、事務局をCCに入れてメールで連絡してもらいたいと考えています。

続きまして、資料の6をご覧ください。

こちらは、訓練当日の会場配置の案です。各班にはモニター、ノートパソコン、内線電話、ホワイトボード、その他文房具等を用意する予定としております。また後ろに見学者席を設けておりますが、この部会の親会である北多摩西部健康危機管理対策協議会委員にも参加または見学の案内を行いますので、参加者がある程度の人数になることを想定し、見学者から状況を把握しやすいよう、後ろ側にもモニターを設置し、クロノロジーを見られるようにしていきたいと考えています。

続きまして、資料の7をご覧ください。

こちら先ほどご説明した訓練の全体の時間の詳細になります。こちらは後ほどご覧いただければと思います。

続きまして、資料の8をご覧ください。会場の皆さんはクリップ留めとは別のバージョン、3枚目以降、右側がグレイアウトしていない資料をご覧ください。

まず、こちらの1枚目の上の四角ですが、訓練シナリオ（状況）の概要をご覧ください。こちらがシナリオの概要です。

時間軸については、新型コロナの初期をイメージし、少し訓練用にアレンジした時間軸を設定しております。上から順にご説明しますと、12月上旬からはY国で、若年層を中心に重篤な呼吸器疾患患者が多数発生。12月中旬にかけて政府の初動対処方針の決定、Y国への不要不急の渡航延期の呼びかけが行われます。12月28日にWHOが新型SARSが発生した可能性があるとして緊急委員会を開催します。翌日12月29日にWHOが新型SARSの発生及び国際的に懸念される公衆保健上の緊急事態PHEICに該当することを発表します。1月16日に都内初の感染者が確認されます。1月24日に管内1例目が発生するというシナリオを設定しております。

その下の表がシナリオのフルバージョンとなりますが、表頭には想定時間と訓練中の実際の想定時間、それから状況の説明、その右、状況付与の内容や各班に割り当てる課題、それからその右ですが、事務局の動作、それからその右は各班の状況付与と想定される対応を記載しております。訓練参加者全員には上のシナリオの概要や表の状況の部分については共有した上で、全員流れをある程度把握していただいた上で、訓練を実施していきたいと考えております。状況付与であったり、各班の想定される対応は、各班の訓練の検討に支障が出てしまうと思いますので、原則、訓練参加者には共有しない予定としております。

本日は、各班の想定する動きを含めてご意見をいただければと思いますが、そういった訓練の進め方を考えておりますので、部会終了後には回収をさせていただきたいと考えております。

また、1枚目の右上にオレンジの枠で記載しておりますが、シナリオは訓練用のものであり、これが決められた動きそのものというものではありませんので、今日の部会や訓練を通してご意見をいただき、実際、この圏域での動きというのを確認していきたいと思っております。また、訓練中はこのシナリオの設定がおかしいというような、シナリオとたたかわないようにお願いした上で、実施していきたいと考えております。

ではシナリオの具体的な中身についてご説明します。1枚目の状況の（シーン1）と記載してあるところをご覧ください。

まずシーン1としましては、海外発生期の状況をニュースに模した情報を流します。その内容としては、先ほど概要のところで説明したものと同じ内容となっておりますので、ご説明は省略しますが、その右側の状況付与の中に記載してあるとおりです。このニュースを流した後に課題1として、その下の青い枠の中に記載してあるように、この12月29日にニュースを見た住民から、「Y国から帰国したが、本日から39度の発熱、呼吸器疾患の症状がある」という問合せが来たときに、各班がどのような対応をするのかを議論していただこうと考えております。各班でディスカッション、自己紹介を含め、15分程度を予定しておりまして、ディスカッションの後、各班2分程度で全ての班に発表していただこうと考えております。

次に2枚目をご覧ください。

状況のところに、シーン2と書いてあるところです。こちらは都内初の感染者が確認された状況についてです。右の状況付与の欄をご覧ください。概要をご説明すると、

(1) のところで、Y国から出張帰りの20代男性が空港で感染が疑われ、国立感染症研究所で陽性が確認されました。(4) のところで、各自治体、これは都外を含めてということですが、30名の患者のうち、5名が都内区部で新型SARSに感染していることが判明しました。(5) 保健所の調査で5名のうち2名は感染経路の特定ができなかったというシナリオとしております。

下の課題2のところですが、管内はまだ感染者が発生していない状況ですが、発生を目前に控え、各班で準備確認しておくことをディスカッションしていただき、こちらも各班2分程度で発表してもらう予定としております。

次に3枚目をご覧ください。

こちらが管内1例目の発生した以降のシナリオです。状況付与の欄ですが、新型SARSが発生している、またY国とは別のN国から帰国者があり、その帰国時症状はなかったため、市のスポーツ施設を利用し、その3日後、1月24日に発熱症状が発生し、近所のかかりつけ医であるZクリニックを徒歩で受診するという状況からスタートします。

こちらもスクリーンに表示しますが、こちらはニュースではないのですが、この事例のスタートを全ての班が把握しないと、いつ何が始まったか把握できないので、この状況だけ全体で表示しようと考えております。

その下、想定時間10時10分のところですが、事務局からZクリニックに対して、メールでこういった状況を付与し、保健所に電話連絡してくださいというような状況付与を行い、ここから具体的な情報連絡訓練をスタートします。

想定時間10時20分のところですが、保健所は本庁と協議し、病院に受診調整、健康安全研究センターに検体受入準備を依頼していきます。また病院は院内協議の上、受入れを了承していただく想定としております。

少し下に行きまして、10時45分のところ、保健所はZクリニックに患者待機と受診調整について連絡をします。保健所は同時に民間救急を手配し、患者をZクリニックから病院に移送します。

ページをめくっていただき、4ページをご覧ください。

想定日時の12時のところですが、病院で検体を採取し、酸素投与、点滴を開始します。保健所は検体搬送、疫学調査を実施します。

13時15分のところですが、保健所職員が健康安全研究センターに到着し、検体を届けるのですが、本庁からは検査結果が出るまで待機の指示が出ます。時間が飛びまして、19時30分のところですが、健康安全研究センターで陽性が判明しましたが、健康安全研究センターから保健所と本庁に連絡が来る想定としていまして、それを受けて保健所から病院、医師会、市役所に連絡する想定としております。これはあくまで訓

練の想定でありまして、市役所へ連絡するタイミングや情報提供する内容については、東京都でも整理中ということですので、このタイミングの詳細については詰めない予定ですが、これについてもご意見あればお聞きしていきたいと考えております。病院に連絡しましたら、それを受けて病院からは、保健所に対して発生届を提出していただく想定としております。また同時に、感染症の初期の状況ですので、国立感染症研究所の確定を待つという想定としております。

5 ページ目をご覧ください。2 時間程度時間が空いた、想定時間 21 時 30 分に、国立感染症研究所から本庁経由で保健所に確定の連絡があり、夜間のうちに病院、医師会、クリニック、市役所に保健所から連絡する想定としております。

想定日時、1 月 25 日 9 時のところですが、保健所がスポーツ施設及び Z クリニックで積極的疫学調査を実施し、消毒範囲を決定。クリニックと市役所とそれぞれ連携して消毒を実施するところで、訓練終了としたいと思っております。なお今回の訓練は、新興感染症に対する初期対応を想定したものであり、今ご説明のとおり市役所班については、後半に連絡を受けるだけの内容となっておりますので、連絡を受けるまでの間、事務局から課題を提示して、話し合ってもらいたいと考えております。

下の赤枠で囲ってありますが、例えば市の対策本部の設置のタイミングであるとか、学校や高齢者施設への普及啓発、来庁者に向けた感染対策のアナウンス方法などを事前に検討してもらってはどうかと考えておりますので、このことについてもご意見をいただけたらと思います。

なお訓練参加者についてですが、お戻りいただき恐縮ですが、資料 1 をご覧ください。部会の委員のうち、感染症訓練の知見をお持ちの立川病院の竹内委員、災害医療センターの浅利委員につきましては、今回のファシリテーターとしてご協力いただきたいということで、ご相談をさせていただきます。ほかの委員の皆様には、プレイヤーとして、当日訓練にご参加いただければと考えております。

説明は以上です。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。それでは、ここまでの議事で、感染症対応の実践型訓練についてのまとめた説明がありました。ご質問、ご意見などあればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【竹内委員】 立川病院の竹内です。

この訓練のシナリオのところなのですが、管内 1 例目の発生というところで、令和 7 年 1 月 24 日を想定されているところですが、（日曜日）というところで、もちろん実際のところは、いつ、何時に起こるか分からない状況なので、当然日曜日だったり、夜でも何でも発生するのでしょうかけれども、初回の訓練というところでは、日曜日でいろいろなことを動くというのは、保健所ともなかなか連絡が取れない、病院に連絡していただいても私も病院にいませんし、多分いろいろな行政のところでも、日曜日に動くということは、なかなか難しいのではないかと思います。まずは平日の動き

をしっかりとできて、スムーズに連携が取れるというところを想定したほうが初回としてはいいのかなと私は思ったのですが、いかがでしょうか。

【角田市町村連携課長】 ご意見ありがとうございます。こちらはあくまで想定として設定したところですので、ご意見を踏まえまして、平日で検討をしていきたいと思いますが、ほかにこれについてご意見のある方いらっしゃいますでしょうか。では、その方向で検討させていただきたいと思います。

【長嶺部会長】 そのほか、いかがでしょうか。

【浅利委員】 災害医療センター、浅利です。

シナリオのエピソードとか、内容に関してはというお話だったのですが、ファシリテーターガイドのほうで対応できればと思うのですが、この課題1の想定で、これだけの情報を明らかにして受診される方は本当に少ないと思います。今クリニックさん等では、携帯電話での問診票などが進んでいるので、あらかじめ情報がある方は外で待っていただく等はできると思うのですが、今回のグループディスカッションの特色として、施設ごとでグループを組んでいるところを強みにして、実際来た方がこういう情報だったということを少し想定して訓練されたほうがいいのかなというのがあると思うので、こちらはファシリテーターの私と竹内さんのほうで、そういった形でクリニックと病院班が進めていけたらと思うのですが。

あとシナリオに、今言うことではないのかもしれないのですが、机上訓練したときに、必ず最後エピローグとして、この人が結局どうだったのかというところのてん末をお話しするということになっているので、エピローグのほうを追加されるといいと思います。

以上です。

【角田市町村連携課長】 ありがとうございます。1点目につきましては、課題1のところの患者の情報をもう少し詳しくということですか。

【浅利委員】 逆に詳しくないほうがいいと思います。実際に来て、病院の中に入ったら、ただの熱だけではなくて、海外渡航歴があるとか、もっと今日以前からずっと熱発が続いているという情報が明らかになりました、さあどうしますか、となると、最後のほうの資料5枚目のところで、積極的疫学調査を実施となったときに、病院側の課題として受付に来ていた方全員に連絡するとかの手続きが入ってくると思いますので、そういったところを病院やクリニックでは、やったほうがいいのではないかと思います。

【角田市町村連携課長】 ありがとうございます。では、この課題1のところの記載をもっと、例えばY国から帰国し、というような情報はなくていいという理解でよろしいですか。

【浅利委員】 書き方になると思うので、多分この課題1の内容としては、本庁、保健所と市役所班には該当する内容だと思うのですが、課題0というか、病院班とクリニッ

クに最初に来たときの状況としての、割と病院側っていつ、どこで、どのようにというよりも、最初に来たときの状況をグループディスカッションとしては大事にしたほうがいいと思うので、ファシリティーガイドに書くか、①、②とかにして書いてもいいのかなと思います。①は病院班、医師会班（クリニック）がやってもらって、②にこの、今記載してもらっているところは、本庁班、保健所班、市役所班のところでグループワーキングするみたいな形でも、時系列は同じか、この課題1のほうが後になるかとは思いますが、全てのグループがこの状況で話し合うというよりは、せっかくこの訓練をするのであれば、一番近い状況でやってみたらいいのではないかなと思って、書き方に関しては、ご相談させていただければと思うのですが。

【角田市町村連携課長】 ありがとうございます。課題1、課題2は全員で同じような内容で議論してもらったらどうかなと思ったのですが、書き方と課題の付与の仕方については、またご相談させていただきたいと思います。

また、2点目の結果どうなったかというエピローグのところにつきましても、ご相談させていただきなからつুক্তていきたいと思います。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。そのところは検討をさせていただきます。

ほかにございませんか。

平野委員、お願いいたします。

【平野委員】 平野です。

浅利委員のお話を受けて、恐らくシーン1のときは、クリニックや医師会としてやることは、取りあえずクリニックの中に入れないという、そこをまず決めると思うのですね。いつどこにどのようにという、これが分かった状況であった場合は、もう適切なところに行ってください、終わりになるかと思うのです。むしろこの管内1例目の発生のほうが、もっと具体的に考えることができるのかなと思うので、このシーン1は医師会班として何ができるのかなと思ったところではありました。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。事務局、どうでしょうか。

【角田市町村連携課長】 そうですね。この情報がこれだとそういう結論で終わりということになってしまうということだと思いますので、もう少し課題の投げかけの情報について、また相談させていただいて、少し工夫できないか考えていきたいと思います。

【長嶺部会長】 そのほか、いかがでしょうか。

【持田委員】 武蔵村山市です。この資料8の課題の1、それから課題2ということで、課題が二つありますけれども、これが保健所さんの事務局からメールの指示といいですか、メールの投げかけ、それが11月14日当日、二つの案件でメールが飛んでくるということですのでよろしいのですかね。それとも、もう少し具体的な様々な状況などがメールで各班に飛んでくるのか、その各班に事務局から飛んでくるメールというのは同じ内容なのか、その班ごとに沿ったメールの内容になるのか、もし分ければ教えてください。

【角田市町村連携課長】 シーン１、シーン２の課題１、課題２につきましては、まだ管内発生前ということで、各班全体に同じ情報を前のスクリーンの画面でお伝えする予定としております。スクリーンでニュースを流して、実際、こういうニュースがありましたということで、資料８の青いところですね。課題１、課題２の内容についても、このままの課題について、全ての班に同じような、こういう問合せが来たときにどうしますか、ということで、これについてもスクリーンでお示ししたいと思っています。

事務局からメールする内容としましては、管内１例目が発生した後、管内での対応をする中で、適宜別の班、それぞれに対応するような条件付与を事務局からメールでお送りする予定としております。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

【角田市町村連携課長】 私のほうから、確認させていただければと思うのですが、先ほどのシーン１について、この条件付与についてご意見いただきましたが、シーン２のほうで、課題としては、管内発生を目前にして、各組織の中で準備することを検討してくださいとしますが、この条件の情報量についても、何か支障がありそうなところですか、例えばこれでは情報が少ないですとか、もしそういったことがあれば教えていただければと思うのですが。

また、ここの記載については、お持ち帰りいただける資料にも記載しておりますので、ご意見シートのところで、後日に気づいたところがあれば教えていただければと思います。

【長嶺部会長】 今日ご覧になったばかりで難しいと思いますので、ご意見を後ほどいただいても構いません。そのほか、全体的なところでも構いませんし、細かいところでも構わないのですが、いかがでしょうか。

【角田市町村連携課長】 すみません、私のほうから。特に市の方にお伺いしたいのですが、５ページ目の下の赤枠で記載させていただいたような市役所班の方に対して、例えば、市の対策本部の設置のタイミングですとか、学校や高齢者施設への普及啓発、来庁者に向けた感染対策のアナウンスなどについて、課題を付与させていただければと思うのですが、例えば市の対策本部の設置について、この情報量だけじゃ難しいとか、そういうお気づきの点があれば、こちらについていただきたいと思うのですが。

【長嶺部会長】 加藤委員、どうでしょうか。

【加藤委員】 国立市の加藤です。今新型コロナが発生したときのことを思い出していたのですが、対策本部の設置は新型インフルエンザ等対策行動計画に沿ってになります。ちょっと今その計画をすぐに思い出せないの、何とも言えないのですが、新型コロナのときは感染の拡大が始まったときに、対策本部とは名のならない連絡会という形で、国立市の場合は会議の設置をしまして、緊急事態宣言が出るときに、対策本部にたしか切り替えたと記憶しています。なので、情報量が少ないならば、少ないな

りに何ができるかというところをやるかと思います。

ここに学校や高齢者施設への普及啓発、来庁者に向けた感染対策のアナウンス方法とあるのですが、当時を思い出すと、一番大変だったのは差別のほうでした。感染者探しをされてしまいます。どこの誰か公表せいみたいなことがあって、大変だった思い出しております。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。本当にどこの自治体も、そういう差別の対策と言いますか、正しい理解を求めるところに大きな時間と、また状況によってはマスクミ対応で大変だったかと思います。やっぱり問合せなどが一瞬にしてくきますので、分担しないと。一つの部署がやっているとすぐパンクしかねないので、そういったところもこういった訓練を通じながら思い出して、整理しておかなければならないと、今お聞きして思っているところでございます。

ほかにはいかがでしょうか。

櫻井地域保健係長（原田委員代理）、昔を思い出して何かお気づきになったことはありますか。

【櫻井地域保健係長】 私も加藤委員のご発言を伺いながら、当時はどうだったのかと思い出していたのですが、対策本部と今のご質問の中だと、こちら情報の中で、市町村の情報内容として、過不足はないかというところだったとは思うのですが、この赤い太枠の中でご覧いただいた中で、一旦は昭島市のほうも考えていくというところで、戻って検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。本当に患者さんが仮に陽性だったことを考えると、私ども保健所もなかなか難しいかもしれないと、ご家族の支援ですとか、そういったところは市とご相談をさせていただくのかなと、シナリオをつくりながら思っているところでございます。

そのほかいかがでしょうか。

槇野委員、何かお気づきのことありますか。

【槇野委員】 すごくシナリオが準備されていて、準備万端でもうできるのではないかなと思うぐらいでした。ですので、これに沿ってやっていけばいいのではないかなと思っ

て見ていました。
病院班のところは、きっとこのシーン2のところではいろいろ結構話し合ったりとか、やることがあったりするのかなと思いながら見ていました。私は新型コロナの発生当初は対応していませんでしたので、この訓練を通して、その対応が確認できていくというところが、私が実体験として持って帰ることで、ほかのスタッフにもそれが広げられるのではないかと思います。

以上です。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。本当にそうなのですね。あっという間に人も入れ替わっておりますので、新型コロナなども3年あまりとはいえ、人が本当にガラ

ッと変わっていると思います。なので、ここにいる方たちは比較的経験者が多いかもしれないのですが、皆様方の組織に帰れば、やっぱり経験されていない人のほうがあつという間に多くなってくるので、訓練というのは、毎年定期的にやっていくことが大切なのだと思います。今回我々も久しぶりに準備をしながら、こちらメンバーが変わっておりますので、どうだったかとみんなで昔のデータを探しながらも、記憶をたどって準備をしたのですが、実際に行いますと、いろいろたくさん出てくるものなので、一瞬パーフェクトに見えるような気もしていただいたところがあるかもしれませんが、やってみると本当にたくさん問題（課題）が出てくるとと思います。それが訓練の意義だと思います。私はこういうことに接すると、食べ物の生物みたいなものだなと思っていて、絶えず管理というか、触れ続けていかないと、本当に忘れていくものだなと思いながら、今回も内部で準備をしていました。

そのほか、いかがでしょうかね。

平野委員、お願いいたします。

【平野委員】 平野です。

この課題1にこだわってしまっているのですが。実際、ニュースで付与された状況があつて、その課題1にたどり着くまで、すごく合間があつて、本来はここを話し合わなくてはいけない。この課題2のときに、管内第1例目の発生を目前に控え、何ができますかという話合いをすることは、すごく重要なことだと思うのですが、シーン1のところにそこがないと、突然になります。実際は突然なのでしょうが、ここを少なくともクリニック、医師会班としては話し合わなくてはならないと思いました。今の話を伺いながらですね。

恥ずかしながら、新型コロナのときを私も思い出したというか、医師会の事務局にも聞いたのですが、やっぱり何もなくて、東京都医師会や保健所からの案内を裁くので手いっぱいだったというところがありましたので、ここを話し合うというのも一つあってもいいのかなと思いました。ただ、時間制限があると思いますので、それは検討いただきたいと思います。

あともう一つ、この症例の定義をどこまで詳しくする予定なのかを伺いたいと思いました。新型コロナのときは肺炎の影がないと駄目みたいなことがあったので、その症例定義をどこまでやって、どこまでそれを訓練の中で明らかにしていくかということを確認させていただきたいと思っています。

【角田市町村連携課長】 その定義についてですが、このシナリオに記載しているものが、お出しする情報と思っているのですが、もう少し必要な情報があれば、この新型SARSの情報としてまとめてお示したほうがいいのかというのは、検討していきたいと思います。

【長嶺部会長】 ご意見ありがとうございます。

定義のところはまた検討し直そうと思います。こういった初期の対応というのは、ご

指摘いただきましたように、難しいところでございますが、対応していく中で徐々に分かっていくことも多かったです。ありがとうございます。少し見直してみたいと思います。

加藤委員、お願いします。

【加藤委員】 今、平野委員が気にしていらっしゃる課題1のところなのですが、このニュースを見た住民から電話がありましたというのは、その各班に同じ内容で電話があったとしたら、それぞれの班はどのように対応するのかということによろしいんですよね。

【角田市町村連携課長】 これは病院やクリニックに問合せがあるのかなと思うのですが、新型コロナのことがあったので、いろいろ心配になった方が例えば、市役所であったり、保健所であったり、そういったところに連絡した場合には、どのように案内するのかということで、全ての班にこういったときには、それぞれどうしますかということ想定しておりました。

【加藤委員】 ありがとうございます。そうしたら、この男性にどのような指示を出しますかという課題になっているのですが、その指示のカテゴリーとして、どこの医療機関だったり、どのようにという、もうどこの医療に行くように指示をするかを各班で考えてみましょうみたいな感じになっていると思うのですが、例えば、市の保健センターにこういう電話があったとしたら、家族構成を聞いたりとか、さらに必要な情報は何かとか、昨日Y国から帰国し、本日から39度の発熱、呼吸器症状があるという電話から、じゃあそこからどうするのかは、かなり受け手によって、やることがきっと違うと思うので、どのような指示と絞らなくてもいいのでは。そしてそれぞれの立場で、このようにそれぞれの班は考えるんだ。こんなアセスメントをするんだ。この男性に対してそういうふうに伝えてしまうのだと。多分、病院とかクリニックとか市とかによって違うと思います。そこを、違うというところを確認できればいいのではないかと思います。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。そうですよね、情報をどのように集めていくかということで、聞いていくうちにだんだん分かっていって、違う展開になるということで、資料を出すかというよりは、どういう情報を集めましょうかという感じでしょうかね。

【角田市町村連携課長】 ありがとうございます。ここの課題の出し方について、案を検討させていただきたいと思います。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。

持田委員、どうぞ。

【持田委員】 細かいところで申し訳ないのですが、事務局のところ、保健所班が連絡しない場合、状況付与という、これはどういう意味ですか。

【角田市町村連携課長】 実態としては保健所班と事務局は同じような立場なので、本来

こういったことはないのですが、表示している意味としては、保健所班に事務局ではないメンバーが入る想定もありますので、保健所班がこのシナリオどおりに連絡しなかった場合に、事務局からは、保健所からこういう連絡がありましたというのを、例えば病院班とかに事務局から送るという、そういう意味合いとしております。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

WEBでご参加いただいている皆様方もよろしいでしょうか。

それでは一旦、ご討議、これで終了ということにいたしますが、ご覧いただいているうちにご意見、ご質問が出てくると思いますので、まだ本番まで時間はございます。ぜひ、ご意見を寄せていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次に次第5（2）の健康危機管理（感染症）訓練等部会の予定に移りたいと思います。アの多摩立川保健所健康危機管理スケジュール（案）について、事務局から説明をお願いいたします。

【角田市町村連携課長】 それでは、A3資料の資料9に沿ってご説明いたします。スケジュールにつきまして、表で表しておりますが、左側の表側のところで三つの枠に分けております。

上の欄が部会の親会に当たる協議会と、この部会のスケジュール、それからその下の中段が訓練や研修、その下の下段が健康危機対処計画のスケジュールとなっております。

一番上の協議会と部会の欄ですけれども、7月26日に協議会を開催したところです。その下の訓練・研修の枠にありますように、訓練のシナリオなどを並行してこの間調整してきました。また6月には、紫の枠で囲ってありますが、医師臨床研修の一環として、嘔吐物処理訓練と防護服着脱訓練を保健所職員それから管内の市の方と合同で実施しました。嘔吐物処理訓練と防護服着脱訓練は来月10月にも同じようなスキームで実施を予定しております。

一番上の枠に戻っていただきまして、7月26日の協議会を受けまして本日の部会を設置し、本日ご議論をいただいたところです。今日の部会の議論を踏まえて、11月14日、中段のところですが、訓練を実施し、また上の段に戻っていただいて年明けに、第2回の部会で振り返りを行う予定としております。その振り返りを踏まえまして、昨年度の3月に作成した多摩立川保健所の健康危機対処計画の見直しを行いまして、また上段の3月のところですが、この部会でその改定についてご意見をいただければと考えております。

来年度の訓練につきましては、今年度の訓練の実施状況などを踏まえて、また検討していきたいと思います。説明は以上です。

【長嶺部会長】 ただいまの事務局からの説明について、ご意見、ご質問ありますでしょうか。あれば、お願いいたします。

よろしいですか。

それでは、最後に委員の皆様方から会議全体を通して、ご意見やご質問、その他情報提供など、もしございましたらご発言をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

参考までに、もう今年度訓練などされたという方々はいらっしゃるのでしょうか。竹内委員のところはもう訓練を実施されているのですか。

【竹内委員】 竹内です。新興感染症等の訓練は10月11日に、今回は災害医療センターを会場として実施予定です。そのときは一応麻しんの患者さんが不意にやってきたというところで、各施設、どう対応するのかというところで訓練をやる予定になっております。

以上です。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。すばらしい。また何か、共有できることがあれば、当日でも教えていただければ、ありがたいと思っております。

そのほかの皆様、いかがでしょうか。WEBの方々、いかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、本日の議事は終了させていただきます。

委員の皆様方には議事の進行にご協力を賜りまして、ありがとうございました。それでは、事務局にマイクをお返しいたします。

【角田市町村連携課長】 皆様、本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。

本日、この場でいただきましたご意見以外にも、お配りしました資料などについて、お気づきの点がございましたら、配付させていただいておりますご意見シートにご記入いただき、10月2日の水曜日までにメール等でご送付いただければと思います。

これをもちまして、令和6年度第1回北多摩西部健康危機管理対策協議会健康危機管理（感染症）訓練等部会を閉会させていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

午後2時39分 閉会